

福 井 県 医 師 会

だより

第668号 平成29年(2017)2月



雪の勝山 福井市 松原 六郎

表紙写真説明：雪の勝山

福井市 松原 六郎

白山を撮ろうと福井空港から離陸した。  
浄法寺山の上空に差しかった時に町を撮影。  
白山国立公園が美しく写り、勝山の全景と大野の町並みも一部見える。

## 醫 縫 録

## 地域社会に貢献できる医師会を目指して

三方郡医師会長 村 寄 文 人



平成28年4月より三方郡医師会長を拝命し早くも1年が経とうとしています。現在、新米会長として他の郡市医師会との関係維持や、福井県の中で当医師会が果たすべき役割の遂行を一番の課題と考え努力し続ける毎日です。

私は福井市生まれの福井市育ちですが、この地域に縁があってか医師4年目に美浜町丹生診療所の勤務医として一度三方郡医師会に所属し、嶺南のへき地医療を担当する立場となりました。当時県内にあった複数のへき地診療所の1つとして医療を提供することが役目であったと思います。2年間の勤務後一旦この地を離れたものの、医師10年目の春、この地域で一生涯にわたり医療を行っていかうという決意とともに舞い戻り現在に至っております。偶然ですが現在の美浜町東部診療所に勤務するようになってから10年目という節目の平成28年度において、三方郡医師会長という役目をいただいたという状況で、今度は一つの診療所の運営のみならず、三方郡という地域を見据えた活動を求められる立場になったのだと自分に言い聞かせる日々であります。

当医師会は美浜町と若狭町旧三方地区において医療活動を行う医師で構成されておりますが、ご存じのとおり会員数が12名と、福井県の中で最も会員数の少ない医師会であります。二つの地方自治体にまたがった地域で、少ないマンパワーを最大限に生かしどのように活動を行うべきか、これは当医師会が抱える長年のテーマであります。

しかし、医師会員が少ないことはデメリットばかりではありません。会員と会員の顔の見える関係はおのずと出来上がり、お互いの意思疎通や協力関係が維持でき、地域住民に医療を提供する団体としての一致団結力なるものが生まれていると感じております。各医療機関が協力し行っている事業活動として、休日在宅当番医制の実施、学校医としての活動、予防接種事業、産業医活動に加

え、行政が目指す健康づくり事業や福祉事業発展についての各種協議会参加、介護認定審査会などがあります。また、2018年の福井国体に向けての準備や、原子力発電所を持つ地域としての防災訓練活動、住民へのヨウ素剤配布における相談対応、住民が参加するイベントにおける救護班活動など、地域に密着した幅広い活動を実施している状況です。

今や、医療だけを行っている医療機関は少ない時代となり、医療を取り巻く多職種の方々との意見交換や共同活動は欠かせない時代となったことを再認識させられます。そして更には、高齢社会といった社会構造を背景に、国の方針においても、地域の医療や福祉は、地方自治体が地域医療考案などを参考にしながら、次のステージに展開する時代になりました。つまりこれは、地域に密着すればするほど、医師会としての活動が充実した成果として評価され、地域社会に貢献できうる時代になったともいえるのだと思います。多職種との連携という言葉は、地域包括ケアシステムに端を発し聞きなれた言葉となっておりますが、私は三方郡医師会における多職種とは、行政、警察、消防、福祉機関はもちろん、教育機関、金融業、漁業、商業、観光業など、社会を構成するすべての職種の方々を定義したいと考えています。医療・福祉にとどまらず地域活性につながる本当の意味での多職種連携、これこそが地域社会貢献と考えるからです。医師会長としては、地域住民の方々を中心として、様々な機関とも意見交換しながら、三方郡医師会が今まで以上に地域に求められる医師会であり続けるよう頑張っけてゆきたいと思っております。今後ともご支援ご協力の程よろしく願いいたします。